

緑の相談所だより

No. 84

midori no soudanjyo midori no soudanjyo midori no soudanjyo midori no soudanjyo midori no soudanjyo midori no soudanjyo

発行 2003. 10. 1 編集 財団法人旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所。



秋海棠

講習会のお知らせ!

【冬に向けての庭木の管理】

日時 10月12月(日)
午後 1:30~3:30

定員 50名

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤 文男

【冬の花と観葉植物の室内管理】

日時 11月 9月(日)
午後 1:30~3:30

定員 50名

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤 吉光

【冬に向けての洋ラン管理】

日時 10月26月(日)
午後 1:30~3:30

定員 50名

講師 旭川蘭友会
会長 笠原 幸三

【植物を育てる基礎知識】

日時 11月23月(日)
午後 1:30~3:30

定員 50名

講師 旭川市緑の相談所
相談員 伊藤 征夫



龍胆

いずれの講座も参加料は無料です。

お申込み・お問合せは ☎ 65-5553 緑の相談所まで♪

花ことば

一雨ごとに寒さが増し遠くの山々から紅葉の便りが聞こえてくる季節になりました。庭の花壇の花々も最盛期を過ぎて夏の名残が感じられる中で、秋の花が色鮮やかに咲き誇っています。今回はそんな中から3つの花の花言葉をご紹介します。

コスモス（秋桜）

コスモスは、コロンブスがアメリカを発見した後に、アメリカから多くの植物がヨーロッパに伝えられた、その中の一つです。原種はメキシコ中央高原の約2900m～2700mで生息していたもので花期は10月～11月であったとされています。その様な高原的な花であることから、なんとなく清浄な感じをうけます。園芸化された年代が新しいので西洋の「花言葉」の本には当初は載っていないようですが、後に付け加えられていて次のような言葉があげられています。

花言葉 : 赤い花 … 愛情
 白い花 … 純潔 優美



キク（菊）

秋の花と言えば菊を抜きにしては語れません。現在、非常に多く鑑賞用に栽培されているキクはイエギクという種類です。

菊は古く中国から遣隋使や遣唐使の時代に主に薬草として日本へ伝えられてきたとされています。そして江戸時代になって本格的に栽培種として改良が行われ、大輪種をはじめ色々な品種が作出され、今日に伝えられて来ました。

花言葉 : 清浄 高潔



コルチカム（イヌサフラン）

秋の庭の片隅に、突然地面からピンクや白の花だけが湧き上がるように咲く花がイヌサフランです。この花は春に球根から数本の葉を出し、青々と繁り8月頃までにそのまま全部枯れてしまい、そしてしばらく間を置いてから花が咲きます。この様に葉の繁る時と花の咲く時に間があることから、葉が繁っていても花が咲かないものと勘違いして早々に処分してしまったり、葉の枯れた時期に花壇の空間だと思い込んで耕してしまって台無しにしてしまった等の失敗をされた方もいるのではないのでしょうか？イヌサフランは毒草(アルカロイド:コルヒチン)で家畜は決して食べません。また形がサフランとよく似ていますが、この花はユリ科ですが、サフランはアヤメ科で全く異なる植物です。この様なことから「イヌ」と付けられたとされています。

(「イヌ」は、「似て非なるもの」「役立たず」等の意味があります。)

花言葉 : 私の最良は去った よき日々をもっと



『春山行夫の博物誌 I, II』『花ことば』を参考にいたしました。

十月の園芸作業

1 草花・球根

- ◆室内の窓辺で育てているシクラメン、ペコニア、サイネリヤなどに毎日水やりをし、低温が目立つ場合は乾きぎみに管理しましょう。肥料は週1回1000~1500倍の液肥を与えましょう。
- ◆ハダニ、オンシツコナジラミを戸外から室内に持ち込むと急に繁殖するので十分注意しましょう。
- ◆パンジー、デージー、ハボタンなど庭で越冬させる草花類は草木灰や硫酸カリ1000倍液を上旬と中旬に与えましょう。
- ◆霜予報に注意して草花類は入室して、窓辺で育てましょう。
- ◆宿根草の株分けと植え替えは9月に続いておこないましょう。
- ◆秋植え球根の定植時期ですので、植え込む深さや施肥量など注意しましょう。

2 花木類

- ◆クチナシ花芽は新梢の先にできるが低温だと花芽ができないので今月早々に入室し居間など暖かい室内で管理しましょう。水やりは毎日与え、肥料もほしがるので1500倍の液肥を週1回は与えましょう。
- ◆ポインセチアは居間など明るい場所で育てている場合は花芽ができないので、夕方5時から朝方8時までダンボールなどで覆って管理しましょう。

3 雀見葉植物

- ◆ポトスは室内で管理している場合は水と肥料を今までどおり与え、シリンジ(葉面散布)は毎日行いましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- ◆クジャクサボテンは初旬に入室し、室内の日当たりのよい窓辺に置き、4~5日に一回水やりと1000倍液肥を週一回を与えましょう。

十一月の園芸作業

1 草花・球根

- ◆ゼラニウムなど花が開花中のものには毎日水やりをするが、花が咲いていないものには週2~3回でよいでしょう。
- ◆オンシツコナジラミ、アブラムシの有無をよく点検して、一匹でもいたらただちに駆除しましょう
- ◆肥料はすでに不要ですが、1000倍程度の液肥を上旬と中旬に与えると花の寿命は長くなります。
- ◆シクラメンの病気の発生を防ぐためベンレートなどの殺菌剤を週1回程度続けましょう。
- ◆クンシランは玄関、廊下、無暖房の室内で管理していると花芽が出てくるので伸びてきたら居間に移し水を与えましょう。
- ◆アマリリスは葉が茶褐色になっているものは無暖房の室内で、球根を凍らせないようにしましょう

2 花木類

- ◆アザレアは戸外で育ててきたものは上旬に玄関、廊下、無暖房の室内に移し、水やりは週3回程度、肥料は蕾のふくらみが目立ってきたら1500倍の液肥を週一回程度与えましょう。
- ◆ポインセチアは暖かい窓辺に置いて育て、水やりは花包が完全に伸び切れるまで毎日与えましょう。肥料は1500倍の液肥を週1~2回与えましょう。鉢の移動はしないよいにしましょう。

3 雀見葉植物

- ◆素焼き鉢でよく茂って葉数が多い植物は毎日午前中にたっぷり水やりしましょう。プラスチックの鉢は週2~3回与え、シリンジは毎日数回行いましょう
- ◆肥料は週1回、1500倍程度で与えましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- ◆シャコバサボテンは玄関や廊下など涼しいところに置き、蕾が小さいと環境の変化で蕾が落ちる性質があるので注意しましょう。



ポインセチア
poinsettia

＊ ガーデニングの落とし穴 (その二) ＊

～ 前回に引き続いて食中毒を起こす植物をご紹介します。絶対に誤食しないでください！！ ～

植物名	科名	有毒部位	有毒成分	有毒作用
ナンテン	メギ科	全株	ナンジン	過量 神経 呼吸麻痺
ニシキギ	ニシキギ科	種子	脂肪油 激しい成分を含む	嘔吐 腹痛 下痢 運動麻痺
ニチニチソウ	キョウチクトウ科	全草	ピントリン	激しい麻痺が起こることあり
ハマユウ	ヒガンバナ科	全草 鱗茎	リコリン(アルカロイド)	嘔吐 下痢
パンジー	スミレ科	種子 根茎	ピオリン	嘔吐 神経麻痺
ヒガンバナ	ヒガンバナ科	全草 特に鱗茎	リコリン(アルカロイド)	嘔吐 下痢 よだれ 神経麻痺
フクジュソウ	キンポウゲ科	全草 特に根茎	シマリン	嘔吐 脈の乱れ 心臓麻痺
ミズバショウ	サトイモ科	全草 特に根茎	アルカロイド	嘔吐 脈弱まり 呼吸困難
ヤツデ	ウコギ科	葉 根	サボニン	嘔吐 腹痛 下痢
ヤマゴボウ(ヨウシュ)	ヤマゴボウ科	全草 特に根	フイトラシン	嘔吐 下痢 麻痺 等
ユズリハ	ユズリハ科	樹皮 葉	ダフニマクリン	麻痺が起こると言われている
ランタナ	クマツヅラ科	未熟の果実	ランタニン	腹痛 (小さな子供のいる家庭では要注意)
ルピナス	マメ科	種子	スパルテイン ルピニン	嘔吐 麻痺 心臓毒
ロベリア	キキョウ科	全草	ロベリン	呼吸障害 痙攣

～ 続いては触ると皮膚炎を起しやすい植物を紹介します。過敏な人は特に気をつけましょう！！ ～

植物名	科名	有毒部位	有毒成分	有毒作用
アスパラガス	ユリ科	茎葉	汁液	皮膚炎
アネモネ	キンポウゲ科	茎葉	プロトアネモン	発赤発疱 化膿など皮膚炎
アロエ	ユリ科	葉	蔞酸 カルシウム	大量に触ると皮膚炎を起すこともある
オニグルミ	クルミ科	未熟果皮	アレルギー性物質	皮膚炎を起すこともある
カラスビシャク	サトイモ科	球茎	蔞酸 カルシウム	皮膚炎を起すこともある
クワ	クワ科	木(材)	アレルギー性物質含む	かぶれることがある 要注意
ゲッケイソウ	クスノキ科	葉	セスキテルペン(精油)	大量に扱う場合皮膚炎を起す
コニシキソウ	トウダイクサ科	全草	マクラーロール	肌につけば皮膚炎を起す
コンフリー	ムラサキ科	葉の毛	蔞酸 カルシウム	皮膚炎 大量に扱う場合かぶれ